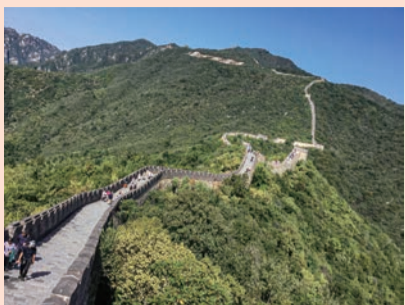


2020年度 新学部開設/学科再編/学部移転 学びはさらに深く、広く

土屋 昌明 教授

中国語、中国文化史



汉语不仅在世界上使用人口多、经济贸易上必不可少，最重要的是中国作为邻国，历史上一直与日本关系紧密，并且中国对日本未来的发展也拥有不可替代的作用...

相互理解

中国語は使用者が多く、ビジネスに必要ですが、最も重要なのは、中国が隣国であり、歴史的に大きな関わりがあったのであり、これからの協力もあっていくべきだということです...

巖 基珠 教授

コリア語、韓国文学、比較文学

이문화 커뮤니케이션이란?

이문화 커뮤니케이션은 왜 필요한 것일까? 현대는 국제사회라고 하지만, 국가만이 아니라, 이미 우리 사회 자체가 언어와 문화 등이 다른 이웃과 더불어 살지 않을 수 없게 되었습니다...



異文化コミュニケーションって?

異文化コミュニケーションはなぜ必要でしょうか?現代は国際社会と言われますが、国のみならず、私たちの社会自体が言語・文化を異にする隣人たちとの共生なしには考えられないものになっています...



寺尾 格 教授

ドイツ語、ドイツ文学、ドイツ現代演劇

朝のあいさつ Gruß am Morgen

In Deutschland ist die Heimatliebe so stark, dass man normalerweise auch beim Gruß am Morgen nicht nur „Guten Morgen“ sagt, sondern auch „Grüß Gott“ in Bayern und Österreich, und „Meun Meun“ in Hamburg...

ドイツでは自分の地域への愛がかなり強いので、朝のあいさつも、標準的な「グーテン・モルゲン(良い朝を)」のみならず、例えばバイエルンやオーストリアでは「グリュース・ゴット(神にあいさつを)」を、ハンブルクなどでは「モイン・モイン(朝・朝)」と言う...



ドイツ演劇クロニクル

寺尾格著

国際演劇協会(17T)日本センターが毎年発行する『世界の演劇事情』そのドイツ演劇部門を担当していた著者が、2001年から19年まで書き続けていた報告に、修正・加筆したものが第一部で、本書の約3分の2を占める。ドイツ演劇は1960年代末の演出家演劇(ラマ演劇)を受けて、21世紀にはさらに「パフォーマンス性」と発展・深化した舞台で、世界の演劇界を牽引している。各年の話題の劇作家の新作や主要な演出家の舞台、演劇を取り巻く状況などを具体的に取り上げ、同時代性を保った報告になっている。さらに日本でのドイツ演劇に関する舞台の劇評や書評などを第二部に収める。ちなみに今年のノベル文学賞を受賞したペーター・ハントケの名前が14カ所、および8本の作品名を見つけたことができる。(彩流社・本体3000円+税)著者(ら)について、経緯学部教授、ドイツ語。

異文化コミュニケーション学科

多彩な言語を学び、幅広いコミュニケーション能力を養う異文化コミュニケーション学科。就任予定の教員から、メッセージをいただいた。異文化コミュニケーションの力を試み解いてほしい。

2020年度、創立140周年を迎える専修大学に、新しく「国際コミュニケーション学部」が誕生する。国際的視点から日本語を研究する日本語学科と、留学と複言語教育で世界の多様性を学ぶ異文化コミュニケーション学科で構成される。確かな国際理解を身につけ、世界に羽ばたく人材を育成する。

井上 幸孝 教授

スペイン語、メキシコ史

Aprender idiomas es ampliar horizontes. Esta nueva Escuela de Comunicación Internacional será un lugar ideal para todos los que quieran abrir sus posibilidades y sus puertas al mundo.



世界を広げよう

新しい言語を学ぶことは、新しい可能性を広げることにほかなりません。日本語だけでなく日本語だけの世界、英語ができれば英語で知ることのできる範囲の世界の理解を深められます。でもそれだけではもったいない。ぜひもう一言語を身につけてほしい。そうすることで、世界はさらに広がり、物事を多角的に見られるようになります...

根岸 徹郎 教授

フランス語、20世紀フランス文学・演劇

Le Français, c'est la langue de l'amour.



Le français, c'est une langue qui parle de l'amour. Si tu trouves ça en murmurant en français, ta vie sera vraiment ravissante. Oui, le français, c'est la langue de l'amour : «l'amour doux», «l'amour dur», «l'amour triste»... Nous avons en fait divers amours, mais avant tout, «l'amour», c'est tenir à un être cher, et c'est le premier et finalement le dernier pas de la communication. On ne peut pas vivre sans «amour»... Nous attendons enfin d'écouter ton «amour» en français.

フランス語は愛の言葉

「ジュ・テーム(Je t'aime)=愛してる」という柔らかな響きから、フランス語を「愛」をささやく言葉と感じてもらえれば、人生はとても明るくなります。そうです、フランス語は「愛の」言葉なのです。甘美な愛、厳しい愛、つらい愛—愛はさまざまです。けれども「愛する」とは、相手を「大切に」思うことです。それは人と人のコミュニケーションの出発点であり、そして終着点でもあります。人は誰かを愛さずにはいられない……みなさんのその愛を、ぜひフランス語で語ってみてください。

Patrick W. Galbraith 講師

英語、サブカルチャー論



教室は出会いの「場」

コミュニケーションとは、人に接することである。それは同時に、知らない人に出会う過程で、知らない自分にも出会う。コミュニケーションが生まれる時、そこには「場」がある。教室はそういった出会いの機会を提供する「場」ではないかと思う。学生は他の学生と出会い、先生と出会い、お互いの考え方に会う。さまざまな違いを持つ人と人との相互作用が起きるような異文化コミュニケーションの環境を、私は学生の皆さんと一緒に作り出したいと思っている。どうすればそれができるか?実は、それは簡単だ。まずは共有できる話のネタを見つけて、それから笑顔で話し合う。私が秋葉原で出会った仲間から学んだコミュニケーションのやり方とは、まさにそれに違いない。

Rebecca Tompkins 講師

英語、女性史、ジェンダー論

To Understand Other Cultures, First Ask "Who Am I?"



When I first studied abroad in Japan as a college student, I experienced a fair amount of "culture shock." Seeing and experiencing so many unfamiliar things, I often felt confused and uneasy. "Culture shock" is the uncomfortable feeling of realizing that your own ways of thinking and ways of doing things are not universal - what you had thought was natural and obvious is revealed to be merely a product of your particular background, essentially a matter of chance. Understanding how your own culture and experiences have shaped your identity is the first step on the path to understanding different cultures. Ultimately, the study of cross-cultural communication strengthens our ability to understand not only people from a variety of different cultures, but also to understand ourselves.

留学生として初めて来日した時、「カルチャーショック」を何回も経験した。「カルチャーショック」は自分の考え方ややり方が普遍的ではないということに気づく不快な気持ちだ。当たり前だと思ったことが、特定の事情や偶然によるものでしかないということが明らかになる。自分の文化や経験が、自分のアイデンティティーにどのような影響を与えたか理解することは異文化理解への第一歩だ。つまり、異文化コミュニケーションの勉強は、さまざまな文化の人々への理解だけではなく、自分自身への理解も深くなるのだ。

異文化の理解なら、まずは「自分は誰?」

留学生として初めて来日した時、「カルチャーショック」を何回も経験した。「カルチャーショック」は自分の考え方ややり方が普遍的ではないということに気づく不快な気持ちだ。当たり前だと思ったことが、特定の事情や偶然によるものでしかないということが明らかになる。自分の文化や経験が、自分のアイデンティティーにどのような影響を与えたか理解することは異文化理解への第一歩だ。つまり、異文化コミュニケーションの勉強は、さまざまな文化の人々への理解だけではなく、自分自身への理解も深くなるのだ。

新設 国際コミュニケーション学部

また、20年度は経済学部経済学科が「現代経済学科」と「生活環境経済学科」に再編され、国際経済学科と合わせて3学科制になる。さらに、商学部と大学院商学研究科が生田キャンパスから神田キャンパスに移転する。新たなステージで専大の学びは、さらに深く、さらに広がっていく。

阿部ゼミ「社会言語学と言語調査」



社会言語学

「社会言語学」は、方言や若者言葉など、社会と関わるすべての言語現象が研究対象となる。「言葉の観察を通して、分析力と問題解決力を養うことができる」と阿部貴人准教授。阿部ゼミでは、フィールドワークやアンケートを通して言葉と社会の関係に迫って...

言葉と社会 関係に迫る

阿部准教授の授業では、災害時の緊急情報を外国人に伝えるための「やさしい日本語」について講義。学生たちは作成した日本語で防災マニュアルを作成する実習に取り組んでいる。

王ゼミ「日本語教育と音声の研究」



日本語教育

国内外で日本語教える

王仲子教授のゼミのテーマは、「音声学」と日本語を母語としない人に日本語を教える「日本語教育」。現在、日本語学科ではカナダと韓国で日本語教育実習を行っている。韓国での教育実習を経験した吉田琴未さん(4年次)は「受講生の日本語レベルが異なるので大変な面もあったが、海外で実習できたことは大きな経験になった」と話す。日本語教育能力検定試験に合格した中之内夏美さん(4年次)は、この夏、日本語学校のインターンシップで留学生市役所を担当した。「入学前にはほんやりしていた将来像が、日本語学科で学んだことで明確になった」と、日本語教師を目指す。



言語調査の意義を話す阿部准教授

白河市立図書館で配布されているゼミのパンフレット

丸山ゼミ「コーパスを使った日本語研究」



コーパス日本語学

データベース用い分析

コーパスとは、話し言葉・書き言葉を大量に集めたデータベースのこと。コーパスを検索・集計することで、日本語が実際にどのように使われているのかを明らかにすることができる。この日丸山岳彦教授のゼミでは歌詞の分析をしていた。日本語の歌詞を500曲ほど集め、そこで使用されている表現を集計。「演歌でも外来語は結構使われている」とゼミ生たちが調査を進めていた。岩下由さん(4年次)は「例えば「たまご・タマゴ・玉子・卵」という表記がどう使い分けられているのか、コーパスで大量の用例を調べると興味深い結果が出る」と話す。後藤礼奈さん(4年次)は「言語聴覚士に興味を持ち日本語学へ。言語はコミュニケーション」という後藤さんは、「わかりやすい表現方法についてコーパスで調べている」。

「白河言語調査」テーマに 日本語学科2教員が講演

文学部日本語学科主催の講演会「岩淵悦太郎と国立国語研究所の白河言語調査」(後援:白河市、白河市教育委員会、国立国語研究所)が、9月29日、福島県白河市立図書館で開催された。岩淵悦太郎(1905-78)は白河市出身の日本語学者で国立国語研究所の所長を務めた。斎藤達哉教授(日本語史・国語史)が岩淵の学問的功績について、阿部貴人准教授(社会言語学)が、岩淵が49年に白河市で実施した言語調査の意義について、それぞれ講演を行った。阿部准教授は、「49年の白河言語調査は、いまだに学界で高い評価を得ている。また、『共通語』という概念は、白河言語調査によって生まれた」と述べた。また、斎藤教授は、「白河言語調査については、資料が散逸してしまっている。報告書に記載されたこと以外は分からないことが多く、今回、白河市の中から、当時、言語調査の対象者だったと名乗り出てくださった方がいたので、今後、インタビューを実施して、当時の様子を知りたい」と講演会の成果を語った。講演会の後半には、丸岡美優さん(文2)、志村映奈さん(文2)、織口花菜子さん(文3)が岩淵や白河方言について研究発表を披露し、好評を得た。織口さんは「会場、白河方言についてのアンケートも行ったので、その結果の分析を進め、白河市立図書館を通して市民の方々にフィールドワークしていきたい」と話した。なお、斎藤ゼミでは、2018年度、教員と学生がパンフレット「白河出身の日本語学者 岩淵悦太郎を知っていますか?」を合作し、白河市立図書館で無料配布している。